一枚の白い手紙

中　一

「今日も学校が始まっちゃうんだ……。」と思いながら下駄箱に入っている上ばきを取ろうとすると、一枚の白い手紙が落ちてきた。少しびくびくしながら手紙を見てみるとそこには「ゴメンネ。」と書かれていた。その手紙を手に教室へ入った。手紙を書いてくれた人を探した。けれど、私に手紙を書いてくれるなんて、私には、誰一人思い当たる人がいなかった。

次の日は引き出しから。手紙には「あなたならいじめに勝てる。」と書いてあった。次の日はロッカーの中から。「助けられなくてゴメンネ。」と書かれていた。次の日も、その次の日も色々な所から白い手紙が見つかった。

その手紙に勇気をもらい、親と先生に言った。今までの悲しい気持ちを泣きながら必死に話した。

学校では学級活動でイジメについてクラス皆で話し合った。

家では毎日学校での出来事を話すようにした。それからイジメは無くなり、仲の良かった子ともずっと仲良くしようと約束した。

結局は白い手紙を書いてくれた人は分からないままだった。

私に手紙を書いてくれた子に「ありがとう」と言いたい。そして、今イジメを受けている子達には、絶対に負けないと、思っていてほしい。

イジメは人の人生を変えるもの。

そして、イジメは多分永遠に無くならないと思う。でも、イジメを無くしたいと思う人が沢山いればイジメは必ず無くなると信じたい。

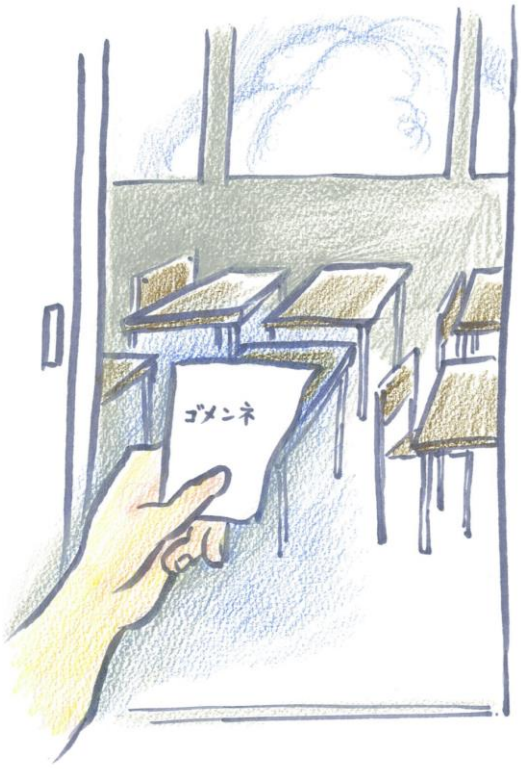
私はそう思う。

人と助け合って生きていくのが人だと思う。

人の痛みを知らなければ人を傷つける。

人の痛みを知っていれば人を傷つけない。

人の痛みを知った私は、これからどう人と接しながら前に進んで行けば良いのか。私は自分が絶対にしないようにしていきたいと強く思う。

そして、イジメをしている人がいたら勇気を

もってやめようと、言いたい。私は人の気持ちを考え、自分が発した言葉や行動に一人一人が責任をもつ社会を築きたいと思う。